

氏 名	藤 原 明 子
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 4262 号
学位授与の日付	平成20年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Fibrosis progression rates between chronic hepatitis B and C patients with elevated alanine aminotransferase levels (アラニンアミノトランスフェラーゼ高値のB型慢性肝炎およびC型慢性肝炎患者における肝線維化進展率)
論文審査委員	教授 加藤 宣之 教授 小出 典男 准教授 大橋 俊孝

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

本研究では、alanine aminotransferase(以下 ALT)高値を示すB型慢性肝炎およびC型慢性肝炎における年間肝線維化進展率を検討した。

1年以上の間隔で2回以上の肝生検が施行されたB型慢性肝炎49例、C型慢性肝炎21例を対象とした。年間肝線維化進展率は、初回と2回目肝生検診断時の肝線維化ステージ(F0-F4)の差を肝生検間隔の年数で除して算出した。

2回の肝生検間隔の中央値は、B型慢性肝炎症例で3.4年(1.8-4.7年)、C型慢性肝炎症例で3.2年(2.1-6.5年)であった。年間肝線維化進展率は、B型慢性肝炎49例で 0.21 ± 0.31 (mean $\pm$ SD) fibrosis units/年、C型慢性肝炎21例で 0.13 ± 0.18 fibrosis units/年であった。B型慢性肝炎、C型慢性肝炎症例いずれもALT値が肝線維化進展に寄与する因子であり、ALT値が70IU/l以上を持続する症例の年間肝線維化進展率は、B型慢性肝炎36症例で 0.28 ± 0.32 fibrosis units/年、C型慢性肝炎8例で 0.22 ± 0.23 fibrosis units/年であった。一方、ALT値が70IU/l未満の症例では、B型慢性肝炎13例で 0.04 ± 0.31 fibrosis units/年、C型慢性肝炎13例で 0.07 ± 0.13 fibrosis units/年であった。

本研究で、肝線維化は、未治療B型、C型慢性肝炎いずれもALT高値を持続する症例で比較的短期間に進展し、ALT値70IU/l以上の症例では4-5年の経過で肝線維化ステージが1段階進展することが示された。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究では、B型慢性肝炎とC型慢性肝炎における年間肝線維化進展率を調べることを目的として、1年以上の間隔で2回以上の肝生検が施行されたB型慢性肝炎49例とC型慢性肝炎21例について、初回と2回目肝生検診断時の肝線維化ステージの差を肝生検間隔の年数で割り年間肝線維化進展率を算出した。その結果、B型慢性肝炎症例では 0.21 ± 0.31 fibrosis unit/年、C型慢性肝炎では 0.13 ± 0.18 fibrosis unit/年という値が算出された。また、alanine aminotransferase (ALT)値とアルブミン値が肝線維化率に寄与する因子であることを見出した。特に、ALT高値(70 IU/L以上)を持続する症例においては肝線維化率が数倍上昇することが示された。

本研究は、未治療のB型およびC型慢性肝炎症例における肝線維化率とそれに関与している因子を明らかにした点において価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。